

# Weekly Michael's News

## ＜今週の聖句＞

2018年5月28日発行 No.70

『風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。霊から生まれた者も皆そのとおりである。』  
(ヨハネによる福音書 第3章8節)

## ＜ハンドボール部が見事一部昇格!! わずか1点差をしのぎ切った彼らを支えたものは…?＞

先週末、チャペルには揃いの青いジャージに身を包んだハンドボール部員が集合、悲願である1部昇格に繋がる入れ替え戦の壮行礼拝を行いました!! 春の大会開始直前にも壮行礼拝を行いましたが、リーグ戦を戦い終えて6戦5勝1敗、2部リーグ2位という成績で1部リーグ9位である立命館大学との対戦が予定されました。私も学生時代に取り組んだ体育会活動で、上位・下位両方の入れ替え戦を経験しました。自分たちが下位ならば上位リーグの厳しさを思い知らされ、また上位であっても今度は「絶対に負けられない」という強いプレッシャーの中の戦いとなり、どちらも神経を削るような厳しさがありました。この日の壮行礼拝も、そのようなプレッシャーの中で行われるのかな…?と思っていたのですが、集まってきた学生の表情は、緊張感の漂う中に清々しさというか、一本芯の通った自信のようなものが感じられました。礼拝後の激励も、喝を入れるために監督・顧問が大声で…というのではなく、冷静に自分たちの向かうべき方向やベストの力を出すための心理状況を確認する内容でした。結果はなんと1点差で見事勝利!! 悲願であった1部リーグ昇格を果たす事ができました!!

現在、様々な事案から学生スポーツのあり方が問われています。学生の募集や大学の補助金などにも関係してきて、もうスポーツの域を大幅に超えてしまっている所もある中で、今回のハンドボール部の姿勢は、今一度その意味を確認する機会となったように感じます。



ピシッと整列!! みなぎる緊張感!!



体育会経験を元にお話しました



熾烈な戦いを制するためには…



藤倉顧問は祈祷文内の精神を説明



静かに目標を確認する西畑監督



本当におめでとうございます!!

## <先週のメッセージ>

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

5月21日（月） テーマ：「余白の大切さ」

木下 めぐみ（リハビリテーション学部）

私は書道が趣味で、今でも前任地の広島におられる先生の所で指導を仰いでいる。よく先生から「字を書く時は、黒い所ばかりでなく白い部分もよく見なさい」と言われる。つまり黒い墨の部分だけでなく、白い部分＝余白もよく見て書きなさいという意味だ。その教えから「余白」とは人生に於いても同じ事が言えるように思う。忙しさのあまり、心の余裕がなくなると表面的に見えるものばかりに目が行ってしまう。また、この人生の「余白」は、無理やり作るものではなく、その人の歩みと表裏一体であり人間の味のようにして、知らぬ間に「余白」を蓄えているようにも思う。そのような「余白」を大切にしながら共に歩んでいきたい。



5月22日（火）

※この日は今年度初の音楽礼拝!! オルガニストの伊藤純子先生の演奏に耳と心を傾けました。KIUの宝であるパイプオルガンの響き、ぜひ皆さんもご鑑賞ください!! 次回は5月29日（火）です!!

5月23日（水） テーマ：「検査値と薬物療法とリハビリテーション」 南場 芳文（リハビリテーション学部）

私は明石にある病院で若手の研究者と共に勉強会を続けている。そこでよく語られる理学療法の基本は、様々なケガや障がいを抱える人の生命と尊厳の「人権的回復」である。例えばリハビリテーションの働きは分野によって理学療法士・作業療法士・言語聴覚士等に分けられるが、その中の段階も関節の動作確保・筋力の向上・動作練習・除痛、そして環境整備等に分けられる。それらの更に根本的な所にあるのが患者の基本的な体力や生命力の確保だ。理学療法の学習では様々な単位が飛び交うが、混乱を避けるため分かり易い単位に置き換えて話をしている。治療者にも患者にも与えられている「命」を中心に据えた取り組みを心掛けたい。

5月24日（木） テーマ：「青信号でもちゃんと確認を」

岩瀬 弘明（リハビリテーション学部）

私は、高齢者の健康支援をテーマに研究している。特に最近注目されている高齢者の課題が自動車の運転である。統計によると、75歳以上の高齢者は、それ未満の人に比べて事故率が2倍以上になる。しかし、田舎に住む高齢者には移動手段として車が必要となる現実がある。また、家族に免許証を取り上げられると、高齢者は家に閉じ籠りがちになり、認知症の原因ともなる。高齢者の事故原因の多くは年齢による認知機能低下である。つまり本人の注意だけでは事故は防げない。私たちも青信号だから…と勝手に判断せずに、車がちゃんと止まるかを確認してから道路を渡るようにしたい。誰も事故は望んでいない。皆にとって住みやすい社会の実現を願う。

5月25日（金） テーマ：「雲の裏地を見るために」

秋月 千典（リハビリテーション学部）

私は大学時代を茨城で過ごした。今日のタイトルに出てくる「雲の裏地」とは、アメリカの諺（「Every Cloud has a Silver Lining」＝全ての雲には銀の裏地がある）で、大学時代の恩師から贈られた言葉だ。実は、受験で希望の進路が叶わなかった私は、仕方なしに茨城へ行くことになった。そんな気持ちが邪魔して1年次は学習にも身が入らなかった。しかし友人や先生方に恵まれ、大学院では有意義な研究を、初任地の病院でも貴重な経験を積む事ができた。先日飛行機に乗ったが、分厚い雨雲を突き抜けると、キラキラと輝く銀色の雲の帯が広がっており、上記の諺と自分の人生とを強く想起した。私たちが様々な場面でぶつかる困難、しかしその裏にも必要な成長や栄光が必ず存在している事を覚えたい。

（文責：野間 光顕）